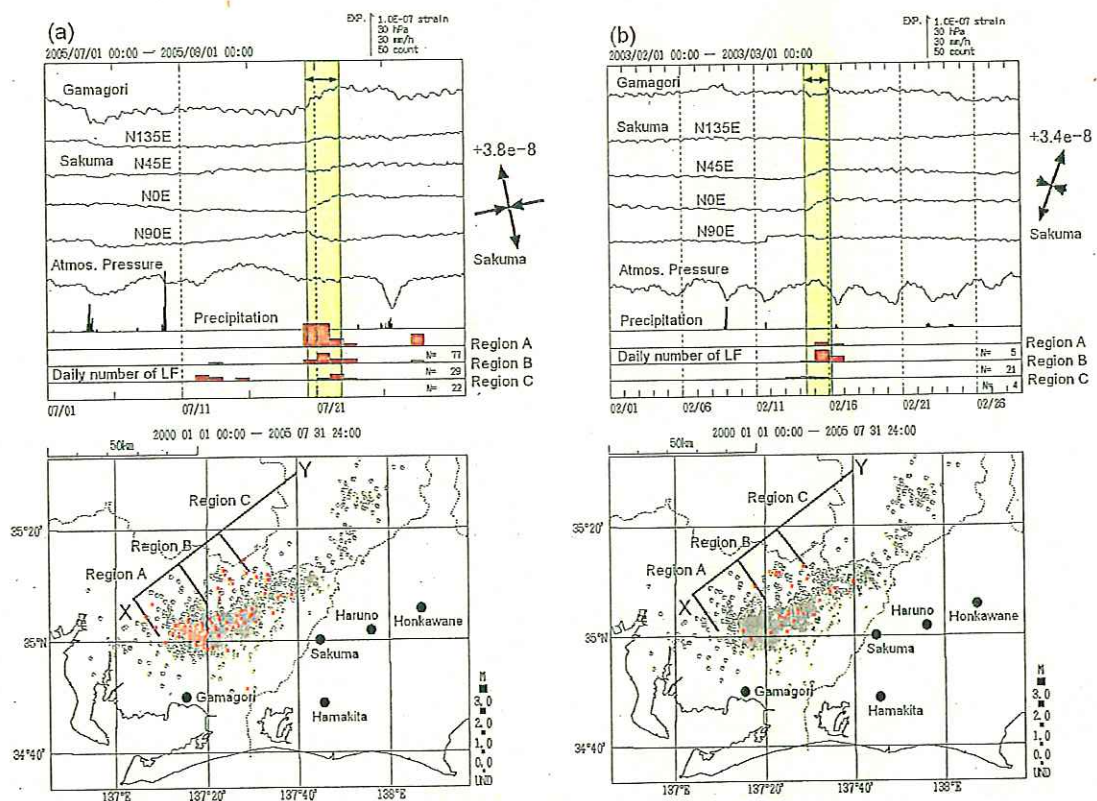


ので、低周波地震回数を参照しながら各観測点で歪変化が見られるか記録の確認を行った。埋設深度の浅い歪計には、降水時に縮み、その後緩やかな伸びの歪変化が見られるので、降水による変化の疑いがある事例は除外した。調査の結果検出された歪変化の時期などを第1表に示す。歪変化の発生回数は、期間Ⅰの15年間に11回、期間Ⅱの6年間に20回であった。

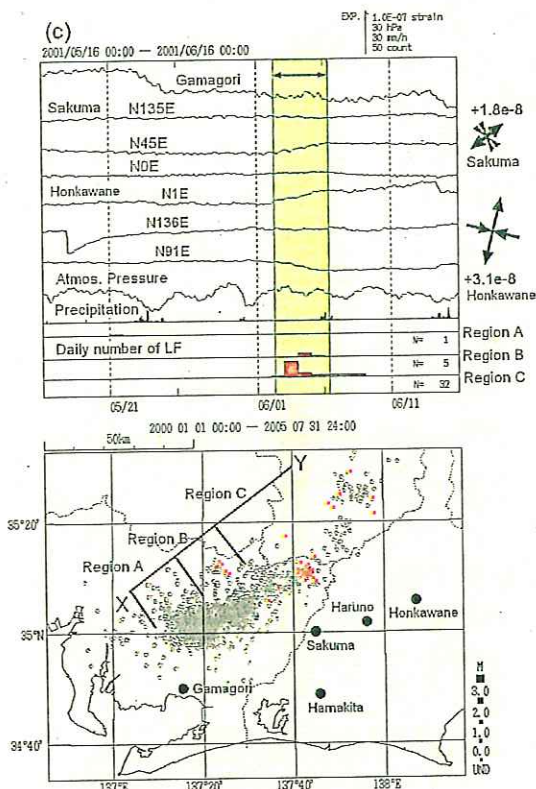
期間Ⅰについては低周波地震のフラグは利用できないが、津波地震早期検知網の地震計の展開により観測点密度が高くなった1995年以降の3例については、トリガ記録の中に低周波微動・地震が含まれているかどうか確認した。その結果、3例いずれも愛知県に震源を持つ低周波地震を含む微動が発生していた。

3. 短期的 SSE の発生領域と歪変化パターン

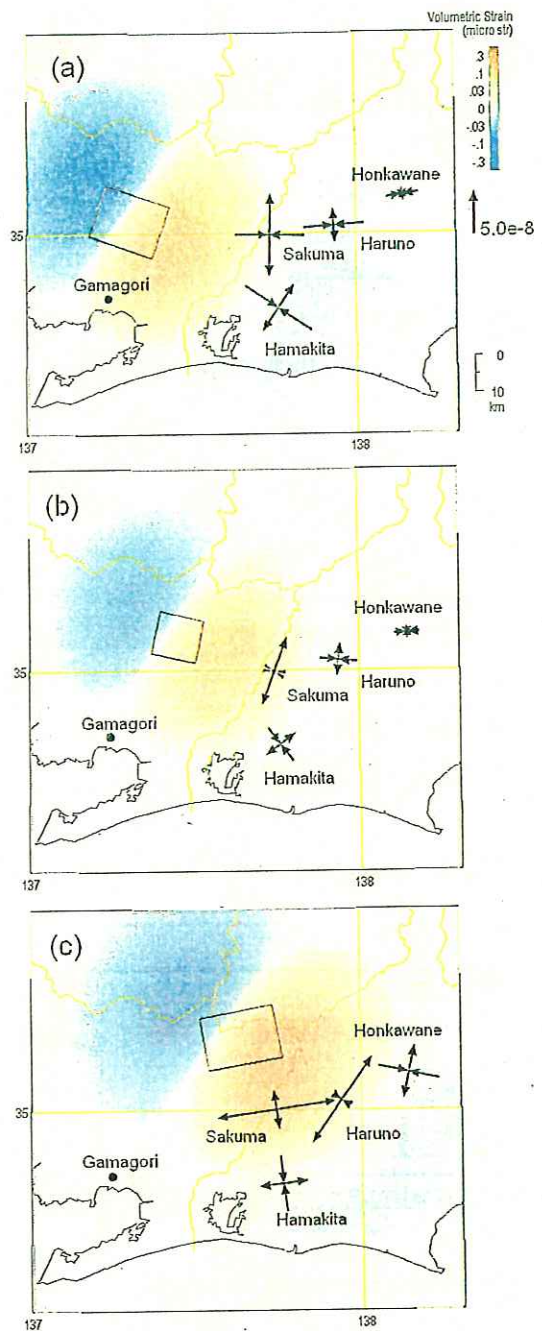
歪変化は主に3つのタイプに分類でき、第2図上段にそれぞれの歪変化の例を示す。どのタイプでも複数の観測点で歪変化が見られるが、多成分歪計についてはいずれのタイプでも全成分に変化が見られた佐久間を中心に図示した。第2図下段に低周波地震の震央分布を、全期間のものを灰色で、各図で歪変化の期間に発生したものを赤色で示す。この地域で発生する低周波地震は3つのクラスターに分かれるように見え、ここでは西から順に領域A、BおよびCと呼ぶことにする。3つの歪変化のタイプと低周波地震の活動領域A~Cとの間には対応関係が見られる。



第2ab図 (左上) 2005年7月の歪変化 (タイプA). (右上) 2003年2月の歪変化 (タイプB). (下) 低周波地震の震央分布. 灰色は2000年1月から2005年7月の震央, 赤色は歪変化の期間に発生したものの。



第 2c 図 (上) 2001 年 6 月の歪変化 (タイプ C). (下) 低周波地震の震央分布. 灰色は 2000 年 1 月から 2005 年 7 月の震央, 赤色は歪変化の期間に発生したもの.



第 3 図 各断層すべりによる理論歪変化.

第 2 表 計算に使用した断層パラメータ

Type of strain change	Latitude (deg)	Longitude (deg)	Depth (km)	Strike (deg)	Dip (deg)	Rake (deg)	Length (km)	Width (km)
A	34.94	137.38	30	289	16	164	18	15
B	35.02	137.50	32	282	16	157	12	12
C	35.13	137.76	36	260	16	135	20	15